

教 科	種 目	意見書	発行者
理科	理科		東京書籍

	着眼点	意 見
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	○章末には「学んだことをチェックしよう」、「章末問題」、単元末には「学習内容の整理」、「確かめ問題」、「活用問題」が位置付いているため、様々なレベルの問題に取り組むことが可能であり、知識が定着するよう、よく工夫されている。 ○実験においては、「注意」の文字に波線を付け、禁止事項を赤字で強調して記載されていたり、6種類のアイコンで注意を促したりすることで、生徒が実験を安全に行えるよう、よく工夫されている。 ○観察、実験後の「結果」の次に「結果の見方」、「考察のポイント」、「分析・解釈」を位置付けて考察ができるよう、よく工夫されている。 ○「なるほどね!」、「歴史にアクセス」、「まちなか科学」、「私たちのSDGs」、「仕事図鑑」、「防災特集」という様々な種類のコラムによって、感性や知的好奇心を育むとともに、科学の有用性を実感することができるよう、よく工夫されている。
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	○他教科とのかかわりについては「○○で学ぶこと」として35箇所位置付けられている。日常生活に活用されているところについては「学びを生活や社会に広げよう」として72箇所位置付けられており、系統的にも発展的にも学習できるように配慮されている。
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	○単元の導入において、生徒の生活経験とつながる事象から問題提起できるよう、単元の構成がよく工夫されている。 ○各単元に「流れに沿ってじっくり探究」ページが位置付けてあり、理科の見方や考え方を働かせながらじっくり探究できるよう配慮されている。特に探究の過程を振り返ったり、実験結果を分析・解釈したりする方法について、対話形式のイラストで丁寧に記載されており、対話的で深い学びにつながる学び方の指導ができるよう、よく工夫されている。 ○探究活動の過程を統一されたアイコンで示し、探究の過程と身に付けたい資質・能力が明確になるよう、よく工夫されている。 ○探究の過程において、「理科の見方・考え方」を働かせる必要性の高い場面には、キャラクターと共に具体的に示すことで、意識的に「理科の見方・考え方」を働かせられるよう、よく工夫されている。
2	(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	○各自が立案した仮説を基に、複数の実験方法から選択できる場面を設けるなど、工夫されている。 ○イラストを用いて様々な視点から疑問が生まれるよう構成されている。 ○特に実験計画を立てる場面では、既習内容を含めた対話例を掲載し、協働的かつ主体的に学習する態度を育成できるよう工夫されている。
	(2) 生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価	○単元の中で「探究をふり返ろう」という意図的な振り返りの場を位置付け、探究の過程の妥当性を振り返る力を育めるよう、よく工夫されている。また、各章の学習前後に「Before&After」を設定し、学習の意義や自分の成長を実感できるよう、よく工夫されている。
	(3) ICTを活用した学習活動	○各章はじめや、観察、実験手順など、生徒がつまずきそうなところに二次元コードがあり、いつでも見直すことができるようよく配慮されている。 ○豊富なシミュレーション教材により、生徒が視覚的に理解を深めることができるよう、よく配慮されている。
3	(1) 教科書の厚み、重量	○厚み：10mm～11.5mm（1年10mm/2年11.5mm/3年11.5mm） ○重量：494g～603g（1年494g/2年590g/3年603g） ○厚みや重量は生徒の負担にならないよう、よく配慮されている。
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	○学習内容の整理では、すべての漢字にふりがなが付けられている。また、重要語句は太字で強調して見やすいよう配慮されている。 ○グラフの線は色だけで区別することはせず、線種を変えたり文字を付記したりするなどの配慮がされている。 ○観察、実験の方法、結果の見方、考察まで1頁にまとめてあり、それぞれを区切ることで、分かりやすく表現できるよう配慮されている。
	(3) 上記以外の使用上の便宜	○単元カラーと小口から見える単元記載ページの色が一致しており、小口から見える色の部分が大きい。単元カラーは色相の違いを意識した配色となっており、使いやすさに配慮されている。 ○巻末資料で、実験器具の操作方法や安全指導に関わる資料、自由研究例の他、グラフの書き方、単位の説明や数値の読み取り方などの細かく説明された資料が記載されている。

教 科	種 目	意見書	発行者
理科	理科		大日本図書

	着眼点	意 見
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	○章末には「章末問題」、単元末には「まとめ（キーワードチェック）」「単元末問題」、「読解力問題」が位置付いており、様々なレベルの問題に取り組むことが可能であり、知識が定着するよう、よく工夫されている。 ○観察、実験においては、「注意」の文字とその内容を黄色の四角で囲って強調して記載されており、生徒が観察、実験を安全に行えるよう工夫されている。 ○観察、実験の頁において、「結果」の次に「結果から考えよう」で考察するポイントを位置付けて考察を促すよう工夫している。 ○「Science Press」、「Professional」、「くらしの中の科学」、「科学のあしあと」のコラムが豊富に位置付けられており、どのコラムも感性や知的好奇心を育むとともに、科学の有用性を実感することができるよう、よく工夫されている。
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	○他教科との関わりを示しているところには、「つながる」というマークで14箇所、日常生活で活用されていることを紹介しているところには「くらしの中の理科」というマークで66箇所位置付けられており、系統的にも発展的にも学習できるよう配慮がされている。
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	○単元の導入において、生徒の生活経験につながる資料を提示し、興味・関心がもてるよう工夫されている。 ○探究の過程において、議論の視点や内容が対話形式の生徒のイラストと吹き出しで記載されており、対話的な学びが深い学びにつながるよう工夫されている。 ○1年生巻末の「探究の進め方」に「理科の見方・考え方」の例を示している。また、各単元では領域ごとの特徴的な理科の見方を意識した課題設定ができるよう工夫されている。
2	(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	○つまずきやすい問題については「例題」を掲載して説明し、定着を図りたい箇所には「演習」を掲載するなど配慮している。 ○探究活動や「話し合おう」マークのところで、キャラクターが対話を促したり、会話の場面を例示したりして、対話が生まれるよう工夫されている。
	(2) 生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価	○探究の過程に「振り返ろう」が位置付けられ、実験の目的や操作の意味などを考え、説明できるようにしている。また、各単元末の「まとめ」にチェック欄を設け、生徒が理解度を自己評価できるよう工夫されている。
	(3) ICTを活用した学習活動	○学習した内容を深めるようなコンテンツが用意されている外部リンクへ接続できる二次元コードが記載されている。 ○器具の基本操作などを常に確認できるよう配慮されている。
3	(1) 教科書の厚み、重量	○厚み：11mm～13mm（1年11mm/2年11.5mm/3年13mm） ○重量：527g～659g（1年527g/2年566g/3年659g） ○教科書の厚みや重量は生徒の負担にならないよう、よく配慮されている。
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	○読みの難しい漢字にふりがなが付けられている。また、重要語句は太字で強調して見やすくなるよう配慮されている。 ○グラフの線は色だけで区別することはせず、線種を変えたり文字を付記したりしている。
	(3) 上記以外の使用上の便宜	○巻末資料に実験器具の操作方法、安全指導に関わる資料の他、学習内容と関わった自由研究や、博物館、科学館、動物園等の紹介など学校外での学びを意識した工夫がされている。 ○巻末資料で、理科で使用する数学的な知識や計算技能について、小学校の算数の内容に遡って丁寧に説明されるなど、教科横断的な視点から、生徒のつまずきによく配慮されている。

教 科	種 目	意見書	発行者
理科	理科		学校図書

	着眼点	意 見
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	○章末には「まとめ」、単元末には「学習のまとめ」が位置付いており、知識が定着するよう工夫されている。 ○実験においては、「注意」に「！！」を付け、禁止事項を黄色で囲い、赤字で強調して記載されており、生徒が実験を安全に行えるよう工夫されている。 ○観察、実験の頁において、「結果」の次に「考察のポイント」を位置付けて考察を促すよう工夫されている。 ○補充資料として、「SDGs を意識して脱炭素社会へ」、「資料」、「発展」が位置付いている。特に「SDGs を意識して脱炭素社会へ」、「資料」は、科学の有用性を実感することができるよう工夫されている。
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	○他教科とのかかわりについては「つながり○○」として3箇所位置付けられている。日常生活に活用されているところについては「補充資料」として49箇所載っており、系統的にも発展的にも学習できるよう配慮されている。
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	○探究活動の過程を示すことで、探究の過程と身に付けたい資質・能力が明確になるよう工夫されている。 ○探究活動の過程で、議論の視点や内容が、生徒と教師の対話形式のイラストと吹き出しで記載されており、対話的な学びが深い学びにつながるよう、工夫されている。 ○毎時間の課題に、働かせる「理科の見方・考え方」を「この時間の見方」、「考え方」として示しており、意識的に「理科の見方・考え方」を働かせられるよう、よく工夫されている。
2	(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	○各項の二次元コード先にあるチャットボットに質問すると、AI が教科書の内容を用いて答えてくれる。また、参照した教科書のページも分かる。「理路整然」コーナーが用意されており、学習した内容を深めることができるよう、よく工夫されている。 ○探究の過程においてキャラクターの会話例を示し、生徒同士の対話を促している。また、教員のイラストが探究のポイントを示すことで対話を促すよう、よく工夫されている。
	(2) 生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価	○探究の過程に「ふり返り」が位置付けられ、探究の妥当性について考えられるような構成になっている。また、単元のはじめにはこれまで学んだことを「学びのあしあと」として位置付け、単元後に立ち返ることで単元を通した自分の考えの変容を振り返れるよう工夫されている。
	(3) ICTを活用した学習活動	○単元や章の導入、単元末問題以外の全ての頁の上部に二次元コードが記載されている。どの頁からも紙面と同じ電子版の書籍へアクセスできるよう配慮されている。 ○他学年の学習内容やNHK for Schoolをはじめ、さまざまな外部リンクへのアクセスが可能になるよう配慮されている。
3	(1) 教科書の厚み、重量	○厚み：10.5mm～12mm（1年 10.5mm/2年 12mm/3年 12mm） ○重量：597g～686g（1年 597g/2年 684g/3年 686g） ○教科書の厚みや重量は生徒の負担にならないよう配慮されている。
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	○読みの難しい漢字にふりがなが付けられている。また、重要語句は太字で強調して見やすいよう配慮されている。 ○章の初めのページには SDGs に関する記載があり、全ての単元で意識付けできるよう、よく工夫されている。 ○1年生では、説明のイラストや写真、グラフが大きく記載されており、見やすいよう、よく配慮されている。
	(3) 上記以外の使用上の便宜	○巻末に、実験器具の操作や生活との学習内容との関連について説明した資料などまとめて記載されている。 ○巻末で、読解力強化問題、全国学力学習状況調査や高校入試問題を例にした資料の記載などがあり、生徒の思考力を深めるよう工夫されている。

教 科	種 目	意見書	発行者
理科	理科		教育出版

	着眼点	意 見
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	○章末には「要点をチェック」、単元末には「要点と重要用語の整理」「基本問題」、「活用問題」が位置付いており、様々なレベルの問題に取り組むことが可能であり、知識が定着するようよく工夫されている。 ○実験においては、「注意」の文字に黄色の三角形で囲った「！」を付け、禁止事項を赤字で強調して記載したり、3種類のアイコンで注意を促したりして、観察、実験を安全に行えるよう、よく工夫されている。 ○観察、実験の頁において、「結果」の次に「実験（観察）」結果から考えよう」で考察のポイントを位置付けて考察を促す等工夫されている。 ○「ハローサイエンス」、「発展」、「広がる科学の世界」、「科学者列伝」というコラムが位置付いており、感性や知的好奇心を育むとともに、科学の有用性を実感することができるよう工夫されている。
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	○他教科との関わりについては「ブリッジ○○」として8箇所位置付けられている。日常生活に活用されているところについては「ハローサイエンス」として50箇所位置付けられており、系統的にも発展的にも学習できるように配慮されている。
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	○単元の導入で生徒の興味・関心を引く写真が提示してあり、学習内容に意欲的に取り組めるよう工夫している。 ○探究活動の過程で、議論の視点や内容が、生徒と教師の対話形式のイラストと吹き出しで記載されており、対話的な学びが深い学びにつながるよう工夫されている。 ○探究の過程において、「理科の見方・考え方」を働かせる生徒の様子を、生徒のキャラクターを用いて示すことで、「理科の見方・考え方」を働かせて思考を進められるよう工夫されている。
2	(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	○探究の過程の各場面に「考えよう」が設定されており、個がまず自分の考えをもつよう促している。また、考えを深めるヒントとなる助言をするキャラクターが設定され、考える手助けとなるよう配慮されている。 ○探究の過程の各場面に「話し合おう」が位置付けられ、話し合いによって自分の考えがより妥当なものになるよう工夫されている。
	(2) 生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価	○単元の中で「探究を振り返ろう」という意図的な振り返りの場を位置付け、探究の過程の妥当性や自分の学び方についてよく考えられるような構成になっている。また各章の学習前後に「学習前、学習後の私」を設定し、学習の意義や自分の成長を実感できるよう、よく工夫されている。
	(3) ICTを活用した学習活動	○ICTを活用して結果がまとめられるよう、表作成ツールなどが用意され、学習の手助けとなるよう配慮されている。 ○学習のおさらいでは、ICTを用いて学習してきたことを確認できるよう工夫されている。
3	(1) 教科書の厚み、重量	○厚み：10.5mm～12.5mm（1年 10.5mm/2年 12mm/3年 12.5mm） ○重量：615g～724g（1年 615g/2年 662g/3年 724g） ○教科書の厚みや重量は生徒の負担にならないよう配慮されている。
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	○読みの難しい漢字にふりがなが付けられている。また、重要語句は太字で色を変えて強調されている。 ○グラフの線は色を変えて区別をし、文字を付記している。また、1年生の文字サイズが他学年よりも大きく、見やすいよう、よく配慮されている。
	(3) 上記以外の使用上の便宜	○巻末資料の学年末総合問題において日常生活と理科の関わりを意識した問題や簡単な自由研究例が掲載されており、理科の学習を身近に感じるよう工夫されている。 ○巻末資料で、理科で使用する数学的な知識や計算技能について、小学校の算数の内容に遡って説明されるなど、教科横断的な視点から、生徒のつまずきに配慮されている。

教 科	種 目	意見書	発行者
理科	理科		啓林館

	着眼点	意 見
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	○章末には「Review」、「問題（二次元コード）」、単元末には「学習のまとめ」、「力だめし」、「動画でチャレンジ（二次元コード）」が位置付けられており、様々な種類の問題に取り組むことが可能であり、知識が定着するよう、よく工夫されている。 ○観察、実験においては、黄色の丸で囲った「！」を付け、禁止事項を赤字で強調して記載されていたり、8種類のアイコンで注意を促したりすることで、生徒が安全に観察、実験を行えるようよく工夫されている。 ○観察、実験の頁において、「結果」の次に考察するポイントを示して考察を促すなど、工夫されている。 ○「部活ラボ」、「お料理ラボ」、「お仕事ラボ」、「防災減災ラボ」、「深めるラボ」という様々な種類のコラムによって、感性や知的好奇心を育むとともに、科学の有用性を実感することができるよう、よく工夫されている。
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	○他教科との関連があるところには「○○と関連」と14箇所位置付けられ、日常生活に活用されているところには「○○ラボ」、「SDGs」のように69箇所位置付けられており、系統的にも発展的にも学習できるよう配慮されている。
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	○単元の導入において、生徒の生活経験とつながる事象から問題提起できるよう、単元の構成が工夫されている。 ○「探 Q 実験」のページが位置付けられており、理科の見方や考え方を働かせながら丁寧に探究できるよう配慮されている。また、活動の過程を示すことで、探究の過程と身に付けたい資質・能力が明確になるよう工夫されている。 ○探究の過程において、「理科の見方・考え方」を働かせた思考や表現がキャラクターの発言などで示されており、「理科の見方・考え方」を働かせて思考を進められるよう工夫されている。
2	(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	○個の特性や興味に応じて学びが広がり、深まるよう日常や学習内容からの疑問を「探 Q のたね」に位置付けている。また、探 Q 実験の例が示しており、個人の仮説や計画が立てられるよう構成されている。 ○実験と探 Q 実験を分けて設定し、探 Q 実験では協働的な学びとなるようになっている。また、「考えてみよう」や「発表してみよう」を設定し、他者との協働によって考えをより妥当にするよう、よく工夫されている。
	(2) 生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価	○単元の中で「探究のふり返し」が位置付けられ、自分の学び方を振り返ったり、新たな課題について考えたりできるよう、よく配慮されている。また、各単元に「学ぶ前にトライ」、「学んだ後にリトライ」を設け、自分の変容、学びの深まりを実感できるような構成となっている。
	(3) ICTを活用した学習活動	○実習シートや探 Q シートは PDF、ワード、ドキュメントの3形式が用意されており、さまざまな ICT 端末に対応できるよう配慮されている。 ○単元末には、学習のまとめや振り返りシートが用意されており、知識の定着を図ったり、意識の変容を確認したりできるよう工夫されている。
3	(1) 教科書の厚み、重量	○厚み：11.5mm～13.5mm（1年 11.5mm/2年 12mm/3年 13.5mm） ○重量：588g～692g（1年 588g/2年 632g/3年 692g） ○教科書の厚みや重量は生徒の負担にならないよう配慮されている。
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	○読みの難しい漢字にふりがなが付けられている。また、重要語句は太字で強調されるなど、見やすくなるよう配慮されている。 ○グラフの線は色だけで区別することはせず、線種を変えたり文字を付記したりしている。 ○植物の断面図などダイナミックな写真が掲載されており、見やすくなるよう、よく配慮されている。
	(3) 上記以外の使用上の便宜	○巻末資料に、実験器具の操作方法、安全指導に関わる資料、グラフの書き方の資料の他、自由研究の仕方や校外施設の活用を促す資料が記載されており、学校外での学びを意識した工夫がされている。 ○巻末資料で、理科で使用する数学的な知識や計算技能について説明されるなど、教科横断的な視点から生徒のつまづきによく配慮されている。

